

在宅血液透析（HHD）の普及の鍵

～自己穿刺への励ましの可能性～

長崎腎病院

○田賀農恵 植木秀一 中山美季 羽田鮎子 米田千恵子 津久田健太
佐藤泰崇 林田征俊 久保純子 白井美千代 丸山祐子 澤瀬健次 船越哲

【背景】

HHD は施設透析と比較すると様々な利点がある一方、教育（特に自己穿刺）・経費等の問題により普及は遅れている。当院でも10年前より取り組んでいるが現在5名にとどまっており、HHD 移行への最大の難関は自己穿刺であった。

【目的】

当院の外来維持透析患者へ HHD に関する意識調査を行い、今後の HHD の普及活動へ活かす

【対象・方法】

対象は当院の外来維持透析患者 219 名、直接聞き取りで意識調査を施行した。

【結果】

透析歴が浅い患者ほど HHD に興味があり、将来してみたいと思っている傾向であった。導入を躊躇する理由としては、依然自己穿刺への恐れがとび抜けて多く、その他トラブル時の対応・経済面・介助者の確保などがあった。

【結語】

10 年経た現在でも、自己穿刺の時点で HHD の説明が止まる状況が続いている。今後は「自己穿刺は心配ありません」と医療者が自信をもって対応する手法からスタートしたいと考えている。